ロボット支援下手術について

診療部次長　兼
消化器外科部長　兼
血液浄化センター長

今　裕史

1.ロボット支援下手術とは

ロボット支援下手術とは執刀医がロボット（ダ・ヴィンチ）を操作しながら行う低侵襲手術のことを言います。実際には患者さんのお腹に開けた8～12mmの４つの小さな創（穴）より手術器具（鉗子や鋏など）を取り付けたロボットのアーム（腕）と内視鏡を挿入し、執刀医はコンソールと呼ばれる操縦席の中で内視鏡の画像を見ながら操作し手術を行います。ダ・ヴィンチの内視鏡は立体的な3Dモニターで術野を10倍に拡大して見られるため細部が鮮明にみることができ、鉗子は手首以上の可動域と手ぶれ防止機能で人の指先以上の緻密な動きが可能です。

これまで胃がんや大腸がんの手術には開腹手術と腹腔鏡手術がありましたがあらたにロボット支援下手術という選択肢が加わりました。

2.ロボット手術の利点

海外における臨床成績では直腸がんに対する低位前方切除術では開腹手術に比べ①手術中の出血量の減少②術後の疼痛の軽減③入院期間と回復期間の短縮④普通食へのより早い復帰などの利点があります。また、腹腔鏡下手術に比べ①回復手術への移行率の低減②主要合併症の抑制③入院期間の短縮④普通食へのより早い回復⑤排尿機能と性機能のより早い回復などの利点があります。

3.当科におけるロボット支援下手術

2018年４月よりダ・ヴィンチを用いた胃がん手術・直腸がん手術が日本国内でも健康保険の適用となりました。また、2022年４月からは結腸がんも適用対象なり、今後さらに適応が拡大し消化器外科領域でもロボット支援下手術が主流となることが予想されます。当科でも本年５月より直腸がんに対するダ・ヴィンチを用いたロボット支援下手術を開始し順調に症例を重ねており今後は結腸がんに対しても行っていく予定です。

ロボット支援下手術は十分な訓練を経て認定を受けた医師のみが行うことができ、訓練を積んだスタッフとともに徹底した安全管理のもとで行われますが開腹手術や腹腔鏡下手術と同様にリスクも伴います。手術の適応に関しては患者さんの病状や状態により検討いたしますので希望されるかたは主治医にご相談下さい。